

目黒区地域福祉審議会会議録

名 称	令和4年度第2回目黒区地域福祉審議会
日 時	令和4年8月23日(火) 午後6時半～8時半
会 場	総合庁舎本館6階 教育委員会室
出席委員	石渡会長、北本副会長、平岡委員、中島委員、西村委員、岩崎(ふ)委員、香取委員、松原委員、徳永委員、長崎委員、脇山委員、吉田委員、寺田委員、今井委員、松崎委員、島崎委員、内川委員、王委員、岡村委員、我妻委員、稲生委員、内海委員、高井委員、南部委員
欠席委員	岩崎(香) 専門委員
区側職員	竹内健康福祉部長、石原健康推進部長、田中子育て支援部長、田邊健康福祉計画課長、堀内健康推進課長、橘保健予防課長、保坂福祉総合課長、相藤介護保険課長、高橋高齢福祉課長、田中障害施策推進課長、中野生活福祉課長、大塚子育て支援課長
傍聴者	なし
配布資料	資料1 計画改定専門委員会への付託事項について(案) 資料2 第9期介護保険事業計画基礎調査及び高齢者の生活に関する調査の実施について 資料3 目黒区障害者計画改定に伴うアンケート調査の実施について 資料4 今後の予定について(案)
会議次第 及び 主な発言	<p>1 開会 委員の24名が出席しており、定足数を満たした。</p> <p>2 計画改定専門委員会への付託事項について 会長 第1回審議会で、「社会情勢の変化に対応した3計画の方向等について」を検討するに当たり、小委員会を設置することとし、その名称を「計画改定専門委員会」とし、構成員などを決定した。「計画改定専門委員会」への付託事項については、本日の第2回審議会で議論した上で、決定していくこととなっている。付託事項について事務局から説明をお願いします。 健康福祉計画課長 (資料1別紙1、別紙2-1-(1)(2)により説明) 介護保険課長 (資料1別紙1により説明) 障害施策推進課長 (資料1別紙1、別紙2-3により説明) 福祉総合課長 (資料1別紙2-1-(3)により説明) 高齢福祉課長 (資料1別紙2-2により説明) 会長 意見・質問等はあるか。 委員 1点目は、資料1別紙2の4ページ、多様な生活課題への分野横断的な支援で、ひきこもりや8050問題、ヤングケアラーといった新しい課題が提示されているが、当事者の声として、どういう支援を受けられるのかわからないため、相談窓口に通ることができない不安感を抱えている。例えば、ひきこもり等だと、家を出て相談窓口にたどり着くこと自体が難しい。窓口では色々な工夫が行われているが、これだけ専門的になってくると、相談窓口が出来てもその中身がわかりにくい。どういう相談が受けられるのかを、区民に伝わるように、相談プロセスの見える化ということを考えていただきたい。 2点目は、7ページの福祉総合課の説明の中で、資料にはないが、急変時という言葉があったかと思う。これだけ網羅的に体制を作って、一番難しいのは、急な親</p>

の入院やリストラで収入が減るなど、家庭環境の急変に対応することが、行政の窓口は弱い気がする。その情報をどの様に把握するかも、難しいテーマであるが、コミュニティ・ソーシャルワーカーや、総合相談窓口との連携が必要だと思う。こういう急変時の対応や理解をどうするかについても、お考えいただきたい。

3点目は、9ページの障害のところ、保護者は子どもが17歳までは、児童福祉法で対応している放課後等デイサービスに18時、19時まで預けてフルタイムで働いていたが、18歳以上になった時に、障害者総合支援法の就労継続支援B型などは16時ぐらいで終わってしまうため、夕方の部分の支援がなくなり、保護者がフルタイムで働けなくなるという夕方支援の課題がある。こういう制度の狭間の問題が目黒区ではどうなっているのか。急変時、制度の狭間、或いは相談の中身が見えにくいというところへの配慮が、今後必要かと思う。

最後1点は、重層的支援体制整備事業については、今回は入っていないが、やることになってから事業計画は考えればよいと思う。

会長 相談の見える化や、制度の狭間などについて、私たちが見逃していたところをご指摘いただけたかと思う。それぞれの委員の皆様が、保健、医療、福祉について、日頃感じているところをぜひお聞きできればと思う。

委員 狭間の支援を受けにくい方や、福祉のサービスを受けたことがないが本当に困っている家庭や子どもに日々接している。

コロナ禍で学校に行きにくくなっている方が増えており、不登校や引きこもりから抜け出せないループの中にいる家庭の相談が増えている。SNSが普及していることにより、若者たちが正しい情報を上手にキャッチできず、自殺につながっている。

支援の偏りがあるという話があり、受けられている方は、色々な支援を上手に使われているが、若者たちがどのぐらい、自分のこととして、隣で困っている人たちや自分の家族のことを考えているか。何を目的に生きてらいいのか、大学に入ったが、なかなか卒業できないなど、そういう相談も増えている。一人一人に丁寧に向き合い、その人に合った支援を考えていかなければいけないと思うが、実際には、自分たちがやっていることだけでは届かないことが多くあり、それを事業者同士で話し合い、目黒の場合は、ネットワークを作ろうという気持ちがある方たちが多く、みんなで支えていこうというようなケースも、この10年ぐらい続けてきている。

虐待のケースに近いと思われる家庭の相談も多く、通報していいと言っても、なかなか通報する勇気が出ない。やはり狭間の方、支援に引っかかかっていない人たちの声が結局拾われていないのは何故かというのを、常に現場で考えて、一つ一つ対応している。

会長 支援が必要なのに届かないということで、目黒区は色々な工夫をしているが、委員が言われたとおり、子どもたちが未来に希望が持たなくなってきている。やはりそこは目黒区として、基本構想なども検討しているが、方向性を打ち出したいと改めて思う。

副会長 目黒区の基本計画の中に、キーワードがいくつか出ているかと思う。今回は、基本計画も改定されたので、色々なキーワードや中身の連動性も考えられるといいと思う。

例えば、多様性の尊重というのは、色々な分野に関わるとても大きなことだと思う。そういった部分の視点が少し弱く、多様な生活課題のところ、例えばLGBTの方や、外国人の方など、特にLGBTの方は、かなり数が多いということ言われているが、隣の渋谷区、世田谷区では色々な取り組みがされているが、目黒区ではあまりその話題が出ていない。LGBTという若い人の問題のように思われがちだが、実は高齢の方の中にも、そういったLGBTの方がいて、カミングアウトができ

ないなど、色々な課題がある。そういったことも含めて、多様性の尊重ということをととても大切にしたいと思う。

これは支える側と支えられる側という点でも、多様性の尊重ということが言えるのではないか。福祉現場においても、多様な方が働くということで、その方たちのダイバーシティマネジメントをどうするかということで、人材確保の問題にもつながるのではないかと思う。

前回の話ともつながるが、介護保険も含めて、適正で公正な運営とともに、持続可能性ということも視野に入れたいといけないうと思う。そういった基本計画のキーワードと連動させた内容を、この期には少し意識できればいいと思う。

会長 多様性の尊重や人材確保という、基本計画の中であまり見えないところをご指摘いただいた。そのあたりも、うまくつなげていけたらと改めて思う。

委員 急変時の対応について、医療なのか、介護なのかは、一般の区民の方にはよくわからない制度であると思う。病院に入院する以外に、例えば介護の領域でも、病院と連携して対応できる施設もある。どういう制度があるのかがよくわかるPRや、支援センターの方が、熱心に教えていくことが必要かと思う。

倒れた時に、障害者手帳一級だったが、要介護認定をしていなかったため、慌てて認定を受けるなど、慌ただしい生活になってしまうこともある。

災害における急変など、色々な急変があるが、ひとりの人の中でも状態が変わることもあり、家族の中での複合的な生活課題に対して、その人に合った支援というのは一体何かを、最初の相談窓口でよく教えてもらえる制度的なものをお願いしたい。

会長 身近な家族が急変した時に、どう対応してもらえるか、迅速で寄り添う支援という言葉が使われているが、それぞれの方にふさわしい支援がどう届くかがうまく整理できるといいと思う。色々お知恵をいただきたい。

委員 本来であれば、救急搬送すべき人が、救急搬送できない、救急隊が来ても病院に入れない、病院に仮に到着できたとしても入院できないなど、そういう状況が今続いている。介護や福祉の面でいうと、先ほど8ページにも示されているが、支える人に対して、支えられる人の数が多すぎて、支える人が減ってしまう。どれも重要事項と書いてあるが、限られた人間でやっていくために重点を絞らなければいけない。また、支える側の人間をどうやって確保するのか。外国人を採用したり色々な方法をやっていると思うが、現在のコロナの状況を見ると、明らかに需要と供給がアンバランスになっている。介護や福祉の面でも今後さらに高齢者が増えて、支える側が減っていくので、やるべきことはいっぱいあるのは間違いないが、それが実現可能なのか不安がある。

もう一つは、現場の声も、切実な状況があると思う。例えば町内会の活動が不活発になっている。町内会の人たちの多くは高齢者で、オンラインでやればいいとアドバイスされても、やったことがないからできない。それに対して行政の方からサポートをして、町内会にパソコンを貸出して、オンラインで町内会を開催するなど、そこまでやらないと地域住民の交流がものすごく落ちている。例えば災害が起きても、昔と違って、祭りもやっていないため、地域のお互いの顔も知らない人達で、助け合いはできないと思う。こういうことでも、地域住民の声を吸い上げる良い方法がないかと思う。

やるべきことがたくさんあるが、それを本当にやっていくのは、相当大変なエネルギーとマンパワーが必要なので、やり方を少し考える時期かと思う。

会長 医療が逼迫しているという状況の中で、需要と供給のアンバランスというのは、介護についても迫っているので、どう支える側を作るか、それをどう現実のものにしていくか、考えていかなくてはと改めて思う。

委員 狭間の問題は非常に大きく、このままやっても、今年度と来年度はどう

か、次の計画がどう変わるのかという不安なところも、残ってしまうと感じている。

今のセーフティーネットでは、なかなか救えない狭間の問題に対して、第2のセーフティーネットをどう作っていくのかを委員の先生と相談しながら、少しでもその狭間の問題が救えるような仕組みを、今回の計画に入れていくように、頑張っていきたいと考えている。

何か現状と違う起爆剤、プレーヤー、お金を入れていかないと、新しいセーフティーネットはつくれない。しかし、今の行政のセーフティーネットだけでは、不安だというのは重々わかっている。そこのシステムづくりを考えて、少しでもそのきっかけや起爆剤を作って今後の計画につなげていきたいと考える。

会長 起爆剤という言葉はいただいたが、今の行き詰まったところを何とか打開できるような方策が、打ち出せたらと思う。ぜひお願いをしたい。

委員 区民委員の方々に質問をさせていただきたい。目黒区は、地域包括支援センターも総合化して、コミュニティ・ソーシャルワーカーの配置もしている。いわゆる多様な問題に対応するため、福祉総合課も作りコンシェルジュをやっている。つまり、総合化して相談を受け止める体制も作り、他地域に比べたら相当な環境がつけられている。それでもやはり漏れてしまう。このズレがどこからくるのか。区民感覚として、あるいは生活者の感覚として、相談の形がもう少しこうなっているのではないかと、こう見るともっと相談がしやすいのではないかと、そのあたりを伺いたい。計画書に書くものとしては相当な質のレベルで、目黒区は先進的な内容が書かれていると思うので、そこがこの計画づくりのポイントになると思う。こういうところが実は必要ではないかということをご指摘いただけると、専門の委員会では非常に重要な議論ができると思うので、お願いしたい。

委員 他の地域はどうかはわからないが、確かに総合化というのをやっていると思う。ただ、やはり組織の問題として、障害と介護の関係、医療と介護の関係、障害との関係など、複雑になっている施策をもう少し整理して、簡単にできないか。どうしたらいいのかというと、やはりPRだと思う。区民が、相談に行き初めてわかることもあるが、こういう制度があるから相談に行くという方がいいと思う。入院して、もう医療では抱えきれないからどこかの施設に行ってくださいとなった時にどこへ行くのか。病院や福祉施設を探したが、その時に初めて介護施設でも見てくれるところがあるなど、色々勉強した。PRをすると、福祉に対する熱意や考え方が変わってくるのではないかという気がする。PRをもう少しお願いしたい。

もう一つ、数字を出せないか。この資料の中で数字が出るとわかりやすくなりいいと感じる。

委員 急変、狭間の見える化をどうしていくのかというところで市民感覚ではあるが、先日、保育園のおはなし会で、保護者や小さいお子様方がいて、おはなし会が終わった後に、令和3年4月から、社会福祉協議会にコミュニティ・ソーシャルワーカーを配置したということで、早速、そのコミュニティ・ソーシャルワーカーの方が来て、話が終わった後で「皆さん何か困っていませんか。小さなことでも構わないから、色々困っていることを何でも私に相談してください。そしたら私がつなぎます。」と言われとても心強かった。おはなし会が終わった後で保護者の方のひとりが、その方とずっと話されていたのも印象的だった。この方達と一歩一歩前に進んで、少しずつ見える化して、狭間に応えられるようにしていくことが、将来的につながっていく一歩になると感じている。

委員 相談対応としてはすごく充実はしていると思うが、高齢者の方は、困ったことがあっても、どこに相談していいかが全然わからないという状況がある。

ヤングケアラーの問題でも、担任の先生に話しても、そういう高齢者の人が一緒

にいるなら、施設に入ってもらった方がいいのではないかという対応である。どこに相談したらいいのかを、福祉教育の段階から伝えてもらう。今の子どもたちが福祉教育でどの様なことしているかという、例えば、老人いこいの家の高齢者と交流したり、特別支援学級の運動会に応援に行くなど、そういうボランティアをしているという先生がいるが、それがボランティアではないと思う。現状を知ったり関わったりすることも大事だが、せっかく充実した相談窓口があるのだから、色々な事を相談できることをわかってもらうことも大事だ。特に急変時はとても困っているが、何に困っているか聞かれても、まだ全然頭の中が整理できていないという状況がある。そのような時に、まずここに相談に行く、ここで話をしてみるというのを、一般の区民はまだまだ知らない。もっとPRができればいいのではないかと思う。そういう相談の時に、アドバイザーみたいな人がたくさんいると心強いのではないかと思う。

副会長 貴重なご意見に感謝する。区長から、この計画はコロナ後の計画だという話があった。コロナの時に、新たな日常という言葉が出て、この基本計画の中にも入っていると思うが、コロナの前には戻れないと思う。そういう意味では、新たな日常が続いていく。今はネガティブな部分が多く出ているかと思うが、オンラインを始め、プラスのこともあったかと思う。そのプラスの部分は、やはり新たな日常で生かしていきたいと思うので、皆さん方から、こういった部分は今後ぜひ生かしていきたいとか、よかったことだとか、そういった部分も教えていただけると、私たちとしては、アフターコロナ、with コロナの計画を立てる上で参考になると思うので教えていただけるとありがたい。

会長 他に計画改定専門委員会で議論してほしいことがあれば、意見等記入用紙やメールにて意見を提出してほしい。

計画改定専門委員会への付託事項については、これで終わる。

3 第9期介護保険事業計画基礎調査及び高齢者の生活に関する調査の実施について

4 目黒区障害者計画改定に伴うアンケート調査の実施について

会長 事務局から説明する。

健康福祉計画課長 (資料2、資料3により説明)

会長 アンケート調査についても、意見等記入用紙やメールにて意見を提出してほしい。

アンケート調査の実施については、これで終わる。

5 今後の予定について

会長 事務局から説明する。

健康福祉計画課長 (資料4により説明)

会長 案として日程を提出していただいた。是非、会議にも参加していただきたい。

6 閉会